

岡原子力委員会委員長の海外出張報告

平成30年10月9日

1. 出張先

オーストリア共和国（ウィーン）

2. 出張期間

平成30年9月15日（土）～19日（水）

3. 渡航目的

ウィーンで開催された第62回国際原子力機関（IAEA）総会に出席し、IAEAの幹部、各国の原子力関係者との意見交換を行う。

4. 主要日程

9月15日（土）東京発 → ウィーン着

16日（日）～18日（火）

IAEA総会出席及び各国原子力部門要人との会談

18日（火）ウィーン発

19日（水）東京着

5. IAEA総会

天野事務局長報告と国連事務局長のメッセージが紹介され、第62回総会の議長を選んだ後に、総会の各国の演説が行われた。

米国はペリー長官がイランの原子力計画は完全な平和利用でなければならない。IAEA各国の集団行動によってシリアがIAEAの保障措置に完全に従うようにする必要があると述べた。

日本は松山政司大臣が演説した。天野事務局長の3期目の取組を最大限支援する。北朝鮮に対するIAEAの取組を支持する。イラン核合意

の履行継続及び I A E A の役割が重要であると述べた。日本の原子力政策の説明では「エネルギー計画」を 4 年ぶりに決定した。原子力発電所は 9 基が再稼働した。安全を最優先に引き続き再稼働を進めると述べた。「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方」を決定した。原子力の平和利用の取組、原子力安全向上の努力継続などを述べた。

各国の発表原稿とビデオは I A E A のホームページに掲載されている。

6. I A E A 総会参加の各国要人との会談

松山政司大臣のゴードン・ハガティ米国エネルギー省核セキュリティ担当次官、フランソワ・ジャックフランス原子力庁長官とのバイ会談に出席した。

会合では、核不拡散問題や日本の原子力政策と利用の状況について説明し、米仏の取り組みについて説明を受け意見交換が行われた。

以 上